

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 4 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100330		
法人名	(株)シーフォークエイツ		
事業所名	グループホーム山ぼうし		
所在地	〒739-1414 広島市安佐北区白木町大字秋山字原890番1号 (電話) 082-828-7636		
自己評価作成日	令和7年2月11日	評価結果市町受理日	令和7年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人福祉キャリアセンター
所在地	広島市中区吉島東一丁目2番2号
訪問調査日	令和7年3月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・当事業所が力を入れている点は、地域との交流を大切にしています。地域での清掃活動の参加や小学校・中学校・地域の集会所や銀行など認知症に関する講義を行い、認知症の理解と協力に取り組んでいます。また白木地域に限らず、認知症に関する講義の依頼があれば精力的に活動範囲を広げ圏域外での活動にも力を入れています。また、他の事業所とも連携を図り、情報交換を行ったり合同で花火大会を行うなど他事業所とも積極的に交流を図っています。職員が仕事を行う上でやりがいを持てるように職員の意見を尊重し可能な限り職員の意見に沿った業務流れにしている。また、勤務希望の制限は決めず可能な限り希望通りの勤務表を作成し、仕事しやすい環境に取り組んでいる。入居者の方には、山ぼうしに来て良かったと思えるように、季節に合わせた行事を行い、楽しんで頂けるように取り組んでいます。入居者や御家族の要望に答え、安心して過ごせるように職員一同取り組んでいます。入居者も職員も楽しい職場である事をアピールしたい点です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>四季の移ろいが感じられる自然豊かな広島市北部に位置している。地元で採れた野菜や生花、町内の店舗から手作りパン等の差し入れもあり、近隣との交流が盛んである。また、災害時に拠点となった経緯もあり、地域住民からの信頼の厚い施設となっている。技能実習生の受け入れが整っており今後も継続される予定である。タブレットを使った医療介護連携システムの導入を行い、管理者や職員の日々の業務の負担軽減が図られている。同システムにより職員間での情報共有がスムーズに行え、医療機関への迅速な対応が可能になっている。インスタグラムを利用して施設内の行事や日々の様子を発信しており、遠方の家族からも好評を得ている。年間計画に基づいた研修も充実している。理念である「人間性の重視や地域社会への貢献、個々の能力発揮」が実現されている理想的な事業所である。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りに後に、山ぼうしの理念と認知症ケアの十か条の把握と、実践に繋げる為、職員皆で復唱し実施できるように努めている。	理念と認知症ケアの十か条は、毎朝の申し送りの際に唱和を行うだけでなく、職員が常に目にする位置に掲示する工夫がされている。日々目にする事で自ずと実践に活かされて行く効果が生まれている。ケアの十か条は分かりやすい端的な言葉で表されている。それぞれの根拠も記載されている為、職員が必要な支援を正しく理解し、目的を持った介助行うことに非常に役立っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での清掃活動に参加させて頂き、地域の一員として活動を行っている。散歩に行かれる際には、ご近所さんとの挨拶を行い地域との交流を大切にしている。	職員は町内の清掃活動にも積極的に参加している。馴染みの方々の訪問も多く、入居者との外出も行われている。野菜や生花、パンなどの差し入れもあり、近隣との交流が盛んである。車いすを使用される方も含め、散歩も毎日行っており、日常的に地域との触れ合いが出来ている。災害時には安全が確保された拠点となっている。事業所や職員への信頼も厚く、地域へ開かれた施設となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの依頼を受け、小学校・中学校・集会所など認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する偏見を持たず理解をして頂けるように活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、施設の報告を行い参加者から、意見を頂き改善と向上に努めている。	2ヶ月に1回の運営推進会議には、地域包括センターの職員や民生委員、家族代表や地域の方々など、幅広く参加されている。事業報告や今後の行事の提案等、活発な意見交換が行われており、議事録には内容が詳細に記載されている。出席されなかった家族には、入居者それぞれの担当職員から、毎月の状況報告の際に議事内容を伝える。口頭で分かりやすく伝えることで家族との信頼関係やサービスの向上に繋がっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護の入居者もいますので、生活課と密に連携を取り、情報交換とサービスの向上や生活のサポートに取り組んでいる。	管理者は電話だけでなく、必要時には直接窓口に出向いて相談や調整を行っている。生活保護者の受け入れや入居後の移行も行っており、生活課とは連携がスムーズに出来ている。運営推進会議を通じて地域包括支援センターとの情報の共有が図られており、日頃から顔の見える関係作りが継続的に行われている。また、管理者は認知症サポーターの講演を市内の小中学校や公民館で積極的に行っており、行政との関係構築が出来ている。	

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		次のステップに向けて期待したい内容
			実施状況	実施状況	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会で3ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り、身体拘束をしてはいけない！意味を理解をして頂く為に取り組んでいる。</p>	<p>施設内に身体拘束委員会を設け、年4回の会議と年間計画に基づいた研修を行っている。禁止となる具体的な行為やその根拠を実際の事例をもとに検討をし、グループ内で話し合いを設けている。毎回の研修や会議の内容は報告書にまとめられ、各自随時の閲覧が可能となっている。正しく理解することで実践に活かした見守りや適切な声かけが適切に行われ、行動制限を防ぎ入居者の安全が確保されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止委員会で3ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り虐待防止に努めている。また、フロア会議でも虐待防止について事例を伝え個人の見解を聞き虐待防止について職員間で共有できるように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>勉強会を行い、成年後見人制度について、後見人の役割と重要性を理解できるように努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時・解約時・変更時に家族と話し、家族からの疑問に関して対応する事としている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や月に1回の近況報告の時に家族の意見や要望があれば反映するように取り組んでいる。また、1階の玄関に意見箱を設けている為、意見があれば反映するように取り組んでいる。</p>	<p>入居者それぞれに担当の職員を設けることで、本人や家族との密な連携と信頼を作っている。要望や意見の把握がしやすく、迅速な運営の反映に繋がっている。それにより、より質の高いサービス提供が出来ている。家族への毎月の報告も担当職員が行い、生活状況を細かく伝えている。玄関には意見箱が設置され、いつでも投函が可能になっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議や業務中など常に職員とのコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に職員の考えや意見を反映させれるように取り組んでいる。そうすることで、職員のやる気に繋がる様に心掛け、サービスの向上とやりがいを感じられる職場を目指している。</p>	<p>職員は、管理者や法人代表に対し日頃から話しやすい雰囲気があり、管理者は随時要望や意見、提案等が聞き取れている。勤務体制や業務内容も職員の意見が常に反映されている。また職員間でのコミュニケーションも円滑で、働きやすく意欲の向上に繋がる環境が整っている。創設時以来から長年勤務する職員も在籍している。毎月のおやつレクや行事に関しても職員が積極的に考案し自主的な運営が行われている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年に2回の賞与、親睦会、残業をさせない。勤務間インターバル制度を導入している。勤務希望の制限を設けず楽しく無理なく働きやすい環境作りに取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内勉強会・施設外研修の参加を行い、スキルアップに繋げている。また、業務中などで適正な対応や介護方法など職員同士情報交換を行い実践に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他施設との交流を図り、合同での花火大会を行ったり、認知症に関する映画を鑑賞するなど地域の他施設との交流を図っている。また情報交換を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス開始前に本人の情報を少しでも得る為にも、傾聴の姿勢でコミュニケーションを図り、性格や思いを知り、相手にも自分の事を少しでも知って頂く事で安心確保に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にバックグラウンドの理解の為、事前訪問し本人と家族からの話を伺い可能な限り要望に応える事で、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、必要とするサービスを確認し、アセスメントを十分に行い本人又は、家族の思いを可能な限り実現できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の方にも無理が無い程度に、洗濯物たたみや、お盆拭きなどお手伝いをお願いし、本人の役割を持って頂き、協力し合える関係性を築いている。また、入居者の方には頼りにしている旨を伝え生きがいとやりがいに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月末に家族に近況報告を行っており、その際に家族の意向などを聞くようにしており、職員だけではなく家族と共に入居者を支えている関係作りをしている。また、可能な限り面会に着手できるように声掛けを行い、家族と入居者との関係性を感じれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や外出や電話連絡など本人と繋げられるようにしている。感染症の流行状況によっては、面会時間や人数など制限をする場合があります。	面会時間は午前9時から17時までとしているが、特に制限を設けず随時対応している。近隣の知人との買い物や家族の付き添いのもとでの通院など外出の機会も多い。自宅に戻り外泊される方もいる。面会や外出、外泊だけでなく、必要時には電話を利用し馴染みの人たちとの繋がりを大切にしている。入居前に住んでいた近隣の方からの面会も日常的にあり、住み慣れた場所での生活が継続できている。	

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者1人1人の性格や状況を把握し、その方にあったグループレクリエーションにお誘いし、入居者同士の交流を図る様に取り組んでいる。また、他の入居者との関りを好まない方もいますので、その方には職員が対応するようにし、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者の家族様には、施設外で見かけた時には、積極的に声掛けを行い、関係性を断ち切らないおうに取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成の際に、本人と家族の希望を取入れたプランの作成や、その都度本人や家族の希望があれば可能な限り対応し、自立支援を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	入居時にはしっかりと聞き取りを行い、希望に沿うケアプランの作成を行っている。職員は日常生活、特に入浴などの1対1の際に会話を楽しみながらコミュニケーションを図っての思いの把握に努めている。タブレットから情報を共有することにより、職員全員で入居者の細かな様子の把握が出来ている。会話が困難な状態になった場合には、家族との連絡を密にし、本人本位の支援が出来るよう検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接の際に、生活歴の情報を聞き、今までされていた生活の環境をなるべく変えず、うちの施設に入居しても安心して生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の1日の状況を記録し、体調の変化や変わった出来事の把握に努め職員が皆同じサービスの提供が行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>3カ月に1回のモニタリングと家族・担当者・入居者・介護支援専門員が半年に1回のサービス担当者会議にて意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し実施に努めている。</p>	<p>3ヶ月に1回のモニタリングを入居者、家族、担当職員、介護支援専門員で行っている。半年ごとのサービス担当者会議では現状の把握をしっかりと行い、本人本位の介護計画の立案に努めている。事業所の全職員がケアの実施状況を端末のタブレットから随時閲覧できる為、より正確で適切な計画作成になっている。職員の情報共有も把握しやすく、日常の支援に活かされている。</p>	<p>会議に参加出来ない家族へは、具体的な支援内容や日頃の実施状況の報告を書面だけでなく口頭で分かりやすく伝え、介護計画の理解を深めていただくことを期待したい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録に日々の様子を記載している。また、日々の生活で気づいた点や対応が変更した点などケア記録や連絡ノートにて記載し職員全員が状況の把握と統一した対応ができるように努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>日々個々によって体調の変化や状況も変化する為、型にとらわれず本人の意思を尊重しつつ入居者を第一としたケアが取り組めるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換にて地域情報の把握や、地域との連携に努めている。また、地域のパン屋さん（ブーランジェリーリシェット）がパンの差し入れをして頂き、入居者が食べる喜びをサポートして頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の連携している協力医の受診や往診の他に、本人又は家族の希望する病院や入居する以前から利用している病院等希望があれば、継続して家族の協力の下、受診を行っている。</p>	<p>事業所が提携している医院からの訪問診療や訪問看護の体制が整っている。訪問医は診療時以外でも医院で飼っている山羊を事業所に連れてきて入居者との触れ合いを楽しむ等、良好な関係が築けている。入居前のかかりつけ医への受診もあり、家族との外出の機会となっている。職員の同行の可能でその際は家族へ受診結果の報告が行われている。導入している医療介護連携システムにより訪問医との連携迅速で、入居者は夜間も不安なく過ごせている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	
			実施状況	実施状況
			次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の訪問看護や日々の状態に応じ状況を報告し適切な治療が受けれるように努めている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の病院とは、小まめに情報交換や訪問する事で退院後も入居者が安心して適切な対応が行えるように努めている。また、知り得た情報を施設の担当医に情報提供する事で、医療面でもスムーズにサポートできるように取り組んでいる。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。基本看取りは行っていないが、本人又は、家族の希望があれば協力医の指示の下、出来る限りのケアやサポートを行い終末期に向けた対応もさせて頂いている。</p>	<p>原則として看取りは行わない契約を事前に書面で説明をし、家族からの了承を得ている。その後も本人や家族の意向の確認を行っている。重度化した際に家族からの希望があれば、指針を共有し、訪問医、看護師との連携を取っている。家族の宿泊も受け入れており、最善となるケアの実施に取り組んでいる。実際に今年になり1名の方の看取りを実施している。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時、事故発生時の対応に関してインシデントレポートでの事故の集計を出し確認を行っている。</p>	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>自施設での消防訓練と災害訓練を取入れ、職員1人1人が直ぐに行動にうつせるように実施している。また各職員がBCPの内容を確認し損害を最小限に抑え、事業の継続と復旧を図れるように取り組んでいる。</p>	<p>以前に地区で災害が発生し、現事業所が避難場所になったこともある。災害時の対応マニュアルや備蓄(食料やおむつ等の日用品3日分)等、BCP(事業支援計画)の策定はしっかりと整えられている。定期的に消防訓練、災害避難訓練を地域住民を交えて行っている。フロアには、建物内の間取りや避難経路を表した図が見やすい場所に掲示しており、防災意識の高さがうかがえる。</p>

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や業務中など常にプライバシー保護について説明を行い、入居者や家族の尊厳を重視し、プライバシー保護に努めている。	年間計画に基づいた研修を行い、権利擁護やプライバシーの確保、接遇について多くの学びの機会がある。職員は常に入居者に敬意を持って接しており、名前の呼び方や声かけに留意した支援を行っている。室内でのポータブルトイレの設置場所などにもプライバシーと自尊心の意識を考慮する対応が取られている。インスタグラムや広報誌への掲載の際には、本人、家族からの承諾を得ている。	個人の使用するパット等を共用のトイレに配置する場合にも、記名はせず職員のみにはわかるようにするなど、入居者や家族のプライバシーに配慮した方法を工夫する事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者からの希望や要望を傾聴し、希望があれば可能な限り提供できるように努めている。また、本人の意思を尊重し職員が決定権を持たず、必ず入居者の意思を確認した上で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、入居者を優先に考え本人のペースで1日を心身ともに穏やかに過ごせる様に努めている。また、本人の希望にも可能な限り応える事で、充実した日が過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容し身だしなみに気を付けている。入浴の際は、本人が過ごしやく好みの服装にあった服を準備し提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんで頂く為に、職員が手作りで準備し提供している。アレルギーの食材は別メニューで提供し安心して食事ができるように取り組んでいる。食後のお盆拭きのお手伝いをお願いし、一緒に食事の準備をしている気持ちを持って頂いている。	栄養士の監修のもと栄養面や健康に考慮した献立が毎食手作りで提供されている。毎日のメニューはフロアに掲示されている。誕生日会や季節に応じた行事食もある。おやつは職員が考案、準備し、入居者の毎月の楽しみとなっている。製菓、製パンの経験のある職員も在籍しており、手の込んだ質の高いおやつが提供されている。食後のお盆拭き等、入居者とともにいき家庭的な雰囲気が作られている。	

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	
			実施状況	実施状況
			次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を記録し、個々の状況を把握する事で、安定した食事量や水分量を提供できるように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアセットを準備し、食後自己にて口腔ケアが行えるように努めている。また、自己にて口腔ケアが困難な入居者に対して、介助を行い口腔内を清潔に保てるように支援している。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々にあったパットやリハビリパンツを使用し、コストの削減に取り組んでいる。また、排泄パターンを把握しトイレ介助を行う事で、極力トイレ内で排泄が行えるように取り組んでいる。	タブレット端末に随時記入することにより、職員全員で排泄状況の把握が出来ている。排泄パターンが分かることで早めの声かけが行え、排泄の失敗が防げる等、入居者の自立支援に繋がっている。また、物品を管理する担当者が決められており、タブレットの記録からパットやおむつのサイズの調整を行っている。それによりコストの削減が可能になり家族への負担軽減が図られている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、適度な運動や水分をしっかり摂って頂き、また3・4日排便がみられない入居者に対して、便秘薬の内服により排便コントロールを行い、定期的に排便が出るように取り組んでいる。入居者の状況を担当医に報告し適切な処置や指示を頂くように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者に固定の入浴日を設けているが、体調不良や本人拒否の状況に応じ入浴日の変更の調整を行っている。入浴をゆっくり楽しんで頂く為に、本人のペースに合わせて、入浴時にも常にコミュニケーションを図り、くつろげるように取り組んでいる。	週に2回、入浴専従の職員が午前中に実施している。一人当たりの制限時間を設けず、入居者の希望に添った入浴が行われている。入浴を嫌がったりする場合には、職員が連携し声かけに工夫をする対応をしている。無理強いせず、他の日に変更する等、入居者優先の対応が行われている。近隣の方からの柚子の提供で季節を感じてもらおう等、楽しみながらの入浴がされている。車いすの入居者にはリフト浴で安全に実施できている。浴室はフロア続きに位置する為、見守りがしやすく安全の確保が出来ている。

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者によって入眠する時間が違う為、休みたい時間に休まれている。不眠の方には、話を傾聴し安心して頂けるように取り組んでいる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>各入居者のファイルに処方されている薬の説明書を保管しており、各職員が薬の名前、効能、副作用等確認できるようにしている。入居者が内服している薬について把握できるように努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>入居者1人1人性格や生活歴が異なる為、個々に合わせたサービスを提供している。活動や他の入居者と交流が好きな方は、グループレクリエーションに参加して頂いている。個人で過ごす事を好まれる方は、職員が付き添い、話を傾聴したり活動を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、散歩に出かける事なるべく外出の機会を作るようにしている。また、外出行事を取入れ普段行かない場所にも行き楽しみを持てるように取り組んでいる。家族の協力や希望にて外出や外泊をされ日常的な外出支援に取り組んでいる。</p>	<p>毎年、平和公園へ有志と千羽鶴を奉納している。事業所横には川が流れており、近隣の方とも声を掛けながら毎日の散歩を楽しんでいる。周辺は道が広く、車いすでの移動もしやすい。遠方への外出の機会を増やし日々の生活に希望を持てるよう、職員は「次はどこに行こうか」と楽しみながら外出先の情報を集めている。一時帰宅の外泊される方もあり、これまでの暮らしの関係が途切れないような支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>基本、金銭の管理は御家族や施設が管理しているが、本人が管理したい入居者に対して御家族の理解の上で本人が管理している。入居者の購入希望があればその都度御家族にご連絡を行い購入をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	
			実施状況	実施状況
			次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や手紙のやり取りの希望があればその都度対応している。	
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段は、フロア内はシンプルにしストレスを感じない空間にしている。季節に合わせた飾りつけを行い楽しんで頂き、大きな窓にて外を眺める事で山が見え四季を感じられる空間になっている。	廊下や食堂等の共有スペースは整然と片付いている。窓が大きく採光が優れている。日当たりがよく明るい室内になっている。定期的に近隣の方からの生花の提供があり、入居者が率先して活かしている。花色紙で桜の花を入居者、職員とともに作り壁面に貼り、季節に合った飾り付けが施されている。月1回、書道の日があり、各自が書いた作品が掲示してある等、レクリエーション活動も活発である。日中は入居者の好みの音楽が流れ和やかな雰囲気がある。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流がとれやすいように努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使用し易い環境を整えている。また入居者が住みやすいように状況に応じ環境整備を行っている。	基本はベッドを設置しているが、希望があれば床にマットを敷く対応をしている。馴染みの家具の持ち込みにも応じており、本人の意向に添った部屋作りを心がけている。転倒の危険のある入居者にはあえて家具を少なくし、安全面での環境を整えている。本人の作品や気に入った写真などを飾り、それぞれが居心地よく過ごせる工夫がされている。夜間に使用するポータブルトイレは戸口から見えないように設置場所に配慮している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーに設計されている。また、手すりを廊下やトイレなどに取り付けている事で、障害を持った方でも自分の能力を生かし行える範囲が広がり自立した生活が行えるようにしている。	

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送りに後に、山ぼうしの理念と認知症ケアの十か条の把握と、実践に繋げる為、職員皆で復唱し実施できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での清掃活動に参加させて頂き、地域の一員として活動を行っている。散歩に行かれる際には、ご近所さんとの挨拶を行い地域との交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの依頼を受け、小学校・中学校・集会所など認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する偏見を持たず理解をして頂けるように活動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、施設の報告を行い参加者から、意見を頂き改善と向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護の入居者もいますので、生活課と密に連携を取り、情報交換とサービスの向上や生活のサポートに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会で3ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り、身体拘束をしてはいけない！意味を理解をして頂く為に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会で3ヵ月に1回会議と職員には事例をもとに考えて頂き報告書を提出して頂く事で、個人の見解を知り虐待防止に努めている。また、フロア会議でも虐待防止について事例を伝え個人の見解を聞き虐待防止について職員間で共有できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	勉強会を行い、成年後見人制度について、後見人の役割と重要性を理解できるように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時・変更時に家族と話し、家族からの疑問に関して対応する事としている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時や月に1回の近況報告の時に家族の意見や要望があれば反映するように取り組んでいる。また、1階の玄関に意見箱を設けている為、意見があれば反映するように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議や業務中など常に職員とのコミュニケーションを図り、意見交換を行うと共に職員の考えや意見を反映させれるように取り組んでいる。そうする事で、職員のやる気に繋がる様に心掛け、サービスの向上とやりがいを感じられる職場を目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の賞与、親睦会、残業をさせない。勤務間インターバル制度を導入している。勤務希望の制限を設けず楽しく無理なく働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内勉強会・施設外研修の参加を行い、スキルアップに繋げている。また、業務中などで適正な対応や介護方法など職員同士情報交換を行い実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流を図り、合同での花火大会を行ったり、認知症に関する映画を鑑賞するなど地域他施設との交流を図っている。また情報交換を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に本人の情報を少しでも得る為にも、傾聴の姿勢でコミュニケーションを図り、性格や思いを知り、相手にも自分の事を少しでも知って頂く事で安心確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前にバックグラウンドの理解の為、事前訪問し本人と家族からの話を伺い可能な限り要望に応える事で、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、必要とするサービスを確認し、アセスメントを十分に行い本人又は、家族の思いを可能な限り実現できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の方にも無理が無い程度に、洗濯物たたみや、お盆拭きなどお手伝いをお願いし、本人の役割を持って頂き、協力し合える関係性を築いている。また、入居者の方には頼りにしている旨を伝え生きがいとやりがいに繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月末に家族に近況報告を行っており、その際に家族の意向などを聞くようにしており、職員だけではなく家族と共に入居者を支えている関係作りをしている。また、可能な限り面会に着手できるように声掛けを行い、家族と入居者との関係性を感じれるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や外出や電話連絡など本人と繋げられるようにしている。感染症の流行状況によっては、面会時間や人数など制限をする場合があります。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者1人1人の性格や状況を把握し、その方にあったグループレクリエーションにお誘いし、入居者同士の交流を図る様に取り組んでいる。また、他の入居者との関りを好まない方もいますので、その方には職員が対応するようにし、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者の家族様には、施設外で見かけた時には、積極的に声掛けを行い、関係性を断ち切らないおうに取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成の際に、本人と家族の希望を取入れたプランの作成や、その都度本人や家族の希望があれば可能な限り対応し、自立支援を念頭に置いたケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接の際に、生活歴の情報を聞き、今までされていた生活の環境をなるべく変えず、うちの施設に入居しても安心して生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の1日の状況を記録し、体調の変化や変わった出来事の把握に努め職員が皆同じサービスの提供が行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3ヵ月に1回のモニタリングと家族・担当者・入居者・介護支援専門員が半年に1回のサービス担当者会議にて意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し実施に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子を記載している。また、日々の生活で気づいた点や対応が変更した点などケア記録や連絡ノートにて記載し職員全員が状況の把握と統一した対応ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々個々によって体調の変化や状況も変化する為、型にとらわれず本人の意思を尊重しつつ入居者を第一としたケアが取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換にて地域情報の把握や、地域との連携に努めている。また、地域のパン屋さん（ブーランジェリーリシェット）がパンの差し入れをして頂き、入居者が食べる喜びをサポートして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の連携している協力医の受診や往診の他に、本人又は家族の希望する病院や入居する以前から利用している病院等希望があれば、継続して家族の協力の下、受診を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護や日々の状態に応じ状況を報告し適切な治療が受けれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院とは、小まめに情報交換や訪問する事で退院後も入居者が安心して適切な対応が行えるように努めている。また、知り得た情報を施設の担当医に情報提供する事で、医療面でもスムーズにサポートできるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。基本看取りは行っていないが、本人又は、家族の希望があれば協力医の指示の下、出来る限りのケアやサポートを行い終末期に向けた対応もさせて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時、事故発生時の対応に関してインシデントレポートでの事故の集計を出し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自施設での消防訓練と災害訓練を取入れ、職員1人1人が直ぐに行動にうつせるように実施している。また各職員がBCPの内容を確認し損害を最小限に抑え、事業の継続と復旧を図れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	フロア会議や業務中など常にプライバシー保護について説明を行い、入居者や家族の尊厳を重視し、プライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者からの希望や要望を傾聴し、希望があれば可能な限り提供できるように努めている。また、本人の意思を尊重し職員が決定権を持たず、必ず入居者の意思を確認した上で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先ではなく、入居者を優先に考え本人のペースで1日を心身ともに穏やかに過ごせる様に努めている。また、本人の希望にも可能な限り応える事で、充実した日が過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容し身だしなみに気を付けている。入浴の際は、本人が過ごしやく好みの服装にあった服を準備し提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を楽しんで頂く為に、職員が手作りで準備し提供している。アレルギーの食材は別メニューで提供し安心して食事ができるように取り組んでいる。食後のお盆拭きのお手伝いをお願いし、一緒に食事の準備をしている気持ちを持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量を記録し、個々の状況を把握する事で、安定した食事量や水分量を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアセットを準備し、食後自己にて口腔ケアが行えるように努めている。また、自己にて口腔ケアが困難な入居者に対して、介助を行い口腔内を清潔に保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々にあったパットやリハビリパンツを使用し、コストの削減に取り組んでいる。また、排泄パターンを把握しトイレ介助を行う事で、極力トイレ内で排泄が行えるように取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、適度な運動や水分をしっかりと摂って頂き、また3・4日排便がみられない入居者に対して、便秘薬の内服により排便コントロールを行い、定期的排便が出るように取り組んでいる。入居者の状況を担当医に報告し適切な処置や指示を頂くように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者に固定の入浴日を設けているが、体調不良や本人拒否の状況に応じ入浴日の変更の調整を行っている。入浴をゆっくり楽しんで頂く為に、本人のペースに合わせ、入浴時にも常にコミュニケーションを図り、くつろげるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者によって入眠する時間が違う為、休みたい時間に休まれている。不眠の方には、話を傾聴し安心して頂けるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者のファイルに処方されている薬の説明書を保管しており、各職員が薬の名前、効能、副作用等確認できるようにしている。入居者が内服している薬について把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者1人1人性格や生活歴が異なる為、個々に合わせたサービスを提供している。活動や他の入居者と交流が好きな方は、グループレクリエーションに参加して頂いている。個人で過ごす事を好まれる方は、職員が付き添い、話を傾聴したり活動を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	天気の良い日は、散歩に出かける事なるべく外出の機会を作るようにしている。また、外出行事を取入れ普段行かない場所にも行き楽しみを持てるように取り組んでいる。家族の協力や希望にて外出や外泊をされ日常的な外出支援に取り組んでいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、金銭の管理は御家族や施設が管理しているが、本人が管理したい入居者に対して御家族の理解の上で本人が管理している。入居者の購入希望があればその都度御家族にご連絡を行い購入をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階 ユニット) 上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や手紙のやり取りの希望があればその都度対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段は、フロア内はシンプルにしストレスを感じない空間にしている。季節に合わせた飾りつけを行い楽しんで頂き、大きな窓にて外を眺める事で山が見え四季を感じられる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流がとれやすいように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使用し易い環境を整えている。また入居者が住みやすいように状況に応じ環境整備を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーに設計されている。また、手すりを廊下やトイレなどに取り付けている事で、障害を持った方でも自分の能力を生かし行える範囲が広がり自立した生活が行えるようにしている。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム山ぼうし

作成日 令和 7年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	個人の使用するパット等を共有用のトイレに配置しているが、記名があり他者から見える状態でプライバシーの配慮が出来ていなかった。	共有トイレに設置してあるパットの箱の名前に限らず、例えばトイレ誘導のお誘いをする際、大声で声を掛けず利用者の近くで他者に聞こえない様に配慮しながらプライバシー保護に努める。	パットの箱に名前をいれず職員しかわからないように花の名前をつけ特定できないようにする。認知症老人ケアの10か条に、「大きな声でトイレの声掛けをしない」を入れプライバシーの配慮を図る。	箱の名前は本日は花の名前に変更しています。10か条の復唱を1週間で把握する。
2	19	浴室の棚や床に洗剤類が置いてあり、誤嚥や転倒などの危険性がある。	環境整備を行い転倒や予期せぬ事故を未然に防ぐ。	入居者の手の届かない場所に洗剤類を置く。整理整頓や環境整備を入浴介助後に行う。	4月7日から1週間実施し、周知徹底を行って行く。
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。